


教育事業「青少年教育に関するモデル的プログラムの開発」

| | | |
|------|----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業名 | いきいき自然体験キャンプ |  |
| 実施期間 | 平成23年9月27日（火）～30日（金） | |
| 担当者 | 企画指導専門職 長谷川 真由 | |

I 事業の趣旨

青少年期とは、好奇心にあふれ、希望に満ち、失敗や挫折を繰り返しつつもそれらに屈することなく前向きに挑戦し続け、そうした試行錯誤の中で意欲を持って自立した社会人の基礎となる素養や力量を培う時期である。ところが青少年の生活実態について、基本的な生活習慣の乱れ・希薄な対人関係・直接体験の少なさ・情報メディアの急速な発展に伴う問題が指摘されるように、社会生活の不適応や準備不足の状態が顕在化し、学力や意欲、規範意識の低下が心配されている。

独立行政法人国立青少年教育振興機構においては、「特定の状況にある青少年の支援」を重点テーマの一つに掲げており、不登校やひきこもり、障害を持った青少年を対象とする事業に積極的に取り組んでいる状況にある。

そこで、渡嘉敷島の豊かな自然とゆとりある時間の中で仲間とのふれあい、児童生徒一人一人が自分の世界を広げ、自己を見つめるきっかけとなることを期待し本事業を実施する。

II 事業の概要

1 事業の目的

渡嘉敷島の豊かな自然に触れることで、自然の雄大さや厳しさを肌で感じ、日頃自己表現の少ない子どもたちの心を開くきっかけとする。

参加者が日常から離れ、新しい仲間と寝食や活動を共にしていくことで、基本的な生活習慣の形成及び人間関係を学びながら自分の考えや発言、協力の方法を身につけていく。

2 参加対象及び募集人員

心因性の不登校児童生徒（小・中） 50名程度
児童生徒の関係者（適応指導教室職員等）
20名程度

3 参加状況

児童生徒 男性 12名、女性 20名 合計 32名
引率 男性 10名、女性 15名 合計 25名

4 実施上の留意事項

参加者に「自信」と「安心」と「共有」の場を設け

るため、健康管理と安全管理の両面に配慮した。

健康管理にあたっては、時間的余裕をもったプログラムを編成し、3名の臨床心理士により体調チェックを行い、水分補給や休養を十分取れるよう工夫した。

安全管理にあたっては、ボランティア、職員スタッフ、引率職員で児童生徒を観察し、必要に応じた支援を行った。

また、荒天時の対策として代替プログラムを準備した。

5 活動のようす

1日目（9月27日）



《仲間と協力してテント設営です》



《ふれあいレクリエーションで緊張をほぐしました》



《火興しから体験しました》



《みんなで今日感じたことをふりかえりました》



《引率・スタッフもふりかえり：情報交換しました》

2日目（9月28日）



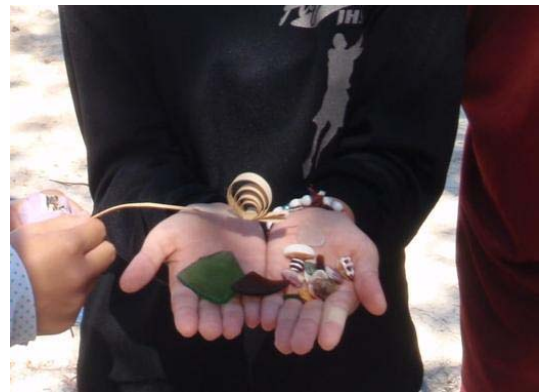
《みんなそろって朝の体操です》



《波の強さに自然の大きさを感じました》



《各班テーマを決めてのサンドアート》



《自然の中にたくさんの宝物発見です》



《役割分担してパエリア作りも順調です》

3日目（9月29日）



《みんなでテントを片付けました》



《力を合わせてマリンブルーの海へ！》



《体験スノーケルでたくさんのお魚に出会いました》



《友情の輪☆》



《きれいな貝殻見つけたよ》

4日目（9月30日）



《班のシートをまとめて返却》



《拾った貝殻でフォトフレーム作り》



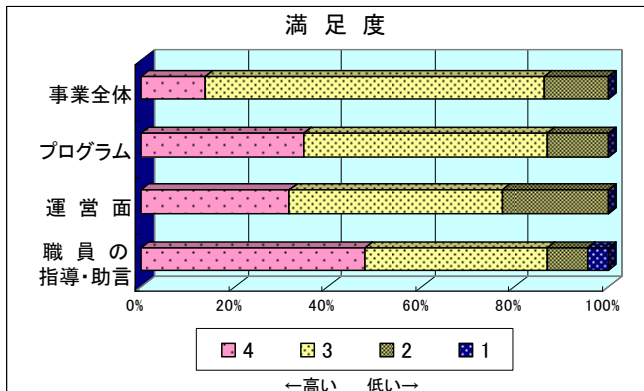
《最後のふりかえりです》



《参加者からボランティアへのサプライズプレゼント》

6 アンケート結果

(1) 満足度



(2) 参加者の声

〈良かった点〉

- 今回、キャンプで普段できないことを体験できて、とても楽しかった。
- このキャンプを通していろんな人と話した。男子はほとんどの人と話をした。女子もおかし大好きな女子とめっちゃ話してゆんたく楽しかったです。やっぱり渡嘉敷は海、普通にきれいです。田舎なのに、施設が上等すぎる。
- 渡嘉敷島は星、海、森がとてもきれいで、夜は星がいっぱい見えました。
- 渡嘉敷島は海と山と星がキレイで自然がたくさんでうらやましかった。爆音とか基地がなくてうらやましかったし、静か過ぎた。
- ご飯を作るのが難しかったけれど、楽しかった。
- 初めての人と人をくっつけるのは結構強引だと思う。嫌だったけれど、でもよかった。

〈改善すべき点〉

- ▲キャンプ場の宿泊は1日がいいと思う。
- ▲就寝時間をもっと増やしてほしい。
- ▲班の分け方が全くうまくできていない。そして先生とボランティアとの連携もとれていない。説明が思ったより少なかった。班で行動するときのリーダーがボランティアというのは全然納得いかない。不満が多い。
- ▲班活動が少し多すぎる気がするので、減らして、教室ごとでも活動にしてほしい(炊飯活動や夜眠るときの部屋など)

〔3〕引率者の声

- ・人数の少ない教室にとっては、同じ悩みをかかえている大勢の仲間とふれあえることはよかった。自然の中で解放されたと思う。ただ、夜間の安全確認(数名が解放されすぎた)は、どこまでリーダーにまかせるのか、教室であるのか、集団づくりか個人の心の解放なのか、決めたほうがよいと思う。
- ・参加生徒の個人表(顔写真や教室での様子、渡嘉敷での目標)を事前に作り、それに基づいてミーティング等を行えたら、スムーズに情報交換できると思うし、班編成の参考になると思います
- ・今回初めて参加してどんな状況になるのか見当もつかなかったが、別々の教室が班で分かれて活動する中で、協調性が養われていくことが集団生活を行ううえで大切だと思うので、良かった。
- ・海洋研修が予定通りいかなかったことがとても残念です。でも、すぐに予定を変更して、内容を深めていただけたことは、とても有難いことです。
- ・豊かな自然の中で海・星などの体験学習をすることは子ども達にとってとても良いものだと思う。対応していただいた職員の方にはとても感謝しています。

Ⅲ 成果と課題

1 事業の成果

- 初日から各教室の枠を超えグループを編成し活動した。最初はとまどいを見せていたものの、完全に拒否する参加者も無く、3回の炊飯活動も回を重ねるごとに、グループ内の役割分担ができて手際よく取り組めた。
- 引率の先生方が炊飯活動やサンド造形に取り組む一生懸命な姿を児童生徒に見せることができ刺激になった。

2 今後の課題

- グループ活動を支えるリーダー(今回はボランティア)の負担を減らす必要がある。
- スタッフ・引率・ボランティアの役割分担を明確にして全員で全参加者を見守るような体制作りについて検討が必要である。
- 事前の打合わせをさらに密にする必要がある。

Ⅳ おわりに

今回、教室の枠を超えたグループ編成によって炊飯活動を3回行うという初めての試みを行った。役割分担を行い短時間で炊飯活動を終える班や、真っ暗になってもまだご飯の炊けない班もあったが、ボランティアリーダーと一緒に、笑顔を見せながらの活動ができた。活動を繰り返し行うことで、子ども同士で考え相談し上達していく姿を見ることができた。

今後も渡嘉敷島でしかできないことを存分に取り入れ、子どもたちの姿が見られるようなプログラム作りをしたい。